

教育システム

教務部長

森本 喜隆

人間力豊かで、自ら考え行動する技術者の育成を達成するために、課程、学部、学科にはそれぞれの教育目標があり、ひとつひとつの科目群にも学習・教育目標があります。

(入学時に配付されている CURRICULUM GUIDE BOOK 2017 を参照してください)

本学は、学力×人間力＝「総合力」と捉え、基礎知識や専門知識を修得すると同時に、多様な分野や世代の異なる方々と協働してチームの中で力を発揮でき、知識を知恵へ変換する能力、すなわち知識を活用して実践に応用する人間力を身につけることで、予測困難な社会の変化に柔軟に対応し、縦横無尽に活躍できるバイタリティーに富んだ将来有為なグローバル人材の育成を目指しています。

アクティブ・ラーニング

本学では、すべての科目で、問題発見解決学習、双方向教育、予習・復習、課題・演習、討議・発表、グループワーク、反転授業（事前に予習をして授業に臨み、授業ではその内容について深く理解するための議論や教え合いを行う形式の授業）等を取り入れたアクティブ・ラーニング（以下A L）を積極的に導入しています。

本学のA Lの特徴は、教員による教授方法だけではなく、学生自身が能動的に学修することに主眼を置き、教員と学生がともに授業を構築し学びを深めるための工夫が取り入れられていることにあります。

アクティブな学習を実践するためには、学年を問わず学生同士が教えあうことや、企業の技術者、地域の方々と世代や分野を超えて関わりながら学ぶことも必要です。本学では、そのための様々な場やプロジェクト活動を提供していますので積極的に参加してください。

大学院では、研究室の運営や他研究室を始めとする学外の研究機関や企業との協働を通して調整力や社会人としての基礎力を養い、後輩に対する指導力や研究グループのリーダーとしての能力をもつ高度専門技術者としての素養が身につきます。自らの学修のみならず同輩との切磋琢磨に加えて、学部の後輩達に対する指導や助言等を通じて自らを錬磨する「場」としても活用してください。

学習支援計画書・e-シラバス

学習支援計画書（シラバス）は学生と教員との授業に関する大事なコミュニケーション手段です。受講の際は、その授業科目を学習することによって何ができるようになるのか、成績評価の方法、各回の授業内容などを確認して受講してください。学部教育においては、学習支援計画書と連動する学習管理システム（e-シラバス）上に詳細な授業内容や教材・課題といった情報を明示する科目があります。予習・復習にも活用し、学びの過程や自らの成長を振り返ることで、次のステップへと活用してください。

さらに、教員は学生からの質問や相談を受けるためにオフィスアワー（様々な能力レベルの学生に応じて個人教授する制度）と呼ぶ時間を設けています。不明な点を解決し自分の能力を伸ばす絶好の機会ですので、積極的な活用を心がけてください。

これらを活用することこそが、日本そして世界で活躍する技術者となる道だと信じて充実した学生生活を過ごしてください。